

## 四 実践事例

(一) いじめの問題に関する指導

実践事例【中学校】

「見て見ぬふり」をなくすためには〔内容項目 A 自主、自律、自由と責任〕

◆教材名「傍観者でいいのか」

出典…「人権教育プログラム 学校教育編」東京都教育委員会 平成十六年三月

掲載資料を一部改編

〈ねらいとする道徳的価値について〉

人には平等に幸福を追求して生きる権利があり、互いに尊重し合ってこそ明るい集団生活が営まれる。一人一人が偏見や差別にとらわれず、自分の責任において判断し、行動することの大切さを深く自覚することが大切である。

本教材の学級で起きているいじめは非常に深刻なことであり、かつ、あってはならないことである。誰に対しても偏見をもつことや差別をすることはあってはならない

ことを、小学校段階から学んでいる。ところが、現実にいじめの問題はどの学級にも起こり得る問題であり、傍観者になる可能性は高い。生徒は、傍観者であってはいけないと分かっていても踏み出せない背景や心情がある。教師がそのことを考えさせ、克服していく自分というものを見つめさせない限り、いじめの問題は解決できない。そこで、道徳の時間においては、傍観者であってはいけないと分かっていても踏み出せない背景や心情を客観的に見つめさせる必要がある。

#### ◆ねらい

正しい行動をとることの難しさや大切さに気付き、人間の弱さを克服しようとする態度を育む。

## ◆指導展開例

【教師】今日は、「傍観者でいいのか」という読み物を使って、みなさんと話し合っていきたいと思います。(黒板に教材名を書く)

一 教材「傍観者でいいのか」を読んで話し合う。

【教師】資料を配ります。いいですか。それでは、先生が読みます。(範読する)

【教師】どうですか。感想をどうぞ。

【生徒A】Aさんがかわいそう。

【生徒B】Dさんは、なぜ「私」に「ほっとけない」といったんだろう。自分で言えばいいのに。

【教師】今、AさんとDさんについての感想がありました。登場人物の確認をしましょう。Aさんは、気が弱く頼りなさそうな感じの生徒、Bさんは、Aさんに対してきつく当たっています。そして、Bさんには、いつも一緒にいる人たちがいます。いわゆるBさんが中心のグループ。そして、Bさんたちのグループではないけれど、一緒にからかって笑う人たち。

何もしない何も言わない多くの人たち。「私」に話しかけたDさん。そして「私」でしたね。(「いじめられている生徒」、「いじめている生徒」、「はやし立てる生徒」、「見て見ぬふりをする生徒」の挿絵を横並びに貼り、登場人物の役割の確認とともに、いじめの構図があることも確認させる)

さて、Aさんは、Bさんたちのグループといつも一緒にいるけれど、何かとBさんの言いなりになっています。けれども、ほとんどの人は何も言わなかったし何もしなかった。そのうちに、Aさんは学校を早退したり欠席したりするようになりました。

どうしてこのようにいじめの状況になったのだろう。

【教師】Cさん、どう思いますか。(意図的指名をする指名すると何か考えて発言する生徒C)

【生徒C】何も言わない人たちがいる。どうしてかというと、Bさんたちと関わりたくない、巻き込まれたくないから。

【教師】 Dさんは、どう思いますか。(意図的指名をする 生徒Cの発言にうなずき、共感している生徒D)

【生徒D】 「私」もいじめられるかもしれないと思って、何もできないと思う。

【教師】 何も言わない人たちのことですか。

【生徒D】 そう。今度は「私」がいじめの対象になるかもしれない。

【教師】 Eさんは、どう思いますか。(意図的指名をする 二人の発言を聞いて考えをもつことができるであろう生徒E)

【生徒E】 主にいじているのはBさん。服従している人も逆らうことでいじめられたくないのだから。

【教師】 ここまで、見て見ぬふりをしている人たち、Bさんと一緒に行動している人たちについての意見が出ました。いじめられているAさんやからかっている人たちについてはどうですか。

【生徒F】 何も反論しないAさん自身が今の状況を周りの人に言うべきだ。

【生徒G】 からかっている人も、いじめられるのが怖くて、間接的にいじめる方に回っていると思う。

【教師】 黒板を見てください。学級は、このような構図(板書七〇ページ参照)になっています。

学級には、Aさんのように「いじめられている生徒」、Bさんを中心とする「いじている生徒たち」、「はやし立てる生徒たち」、「見て見ぬふりをする生徒たち」、「私」は、この「見て見ぬふりをする生徒たち」に含まれますね。それぞれの立場の人が、このような状況に対して何かしらの思いをもっているにもかかわらず、状況は変わりませんでした。

(生徒の発言を「いじめられている生徒」、「いじている生徒」、「はやし立てる生徒」、「見て見ぬふりをする生徒」のどの立場からの意見なのか整理し、分類して板書する)

誰が見ても、Aさんだけがいじめられているということが分かりますよね。このままの状況が続けば、Aさんは耐えられないだろうということも予想がつくと思いませんか。しかし、知らん顔したり、見て見ぬふりをしたり

してしまっていたのはどうしてでしょうか。

#### 〈議論に値する発問〉

このような状況になってしまふことが予想されるにもかかわらず、学級の大半がそうであるように、「見て見ぬふりをする生徒たち」のように行動してしまうのはどうしてだろう。(時間は二十五分)

【教師】はじめに、一人一人がじっくりと考えてほしいと思います。個人で考えを書いた後、グループで話し合います。ワークシートの一つ星(★)に記入しましょう。

(ワークシートに記入する時間は三分)

【教師】それでは、これから、自分の考えや友達への考えについて四人グループで話し合います。四人のグループになりましょう。話し合う内容、話し合う方法について説明します。

まず、「見て見ぬふりをする生徒たち」のように行動してしまうのはどうしてかについて、一人ずつ自分の考えを発表します。発表

した人に対して、他の三人は、発表した人の考えに賛成すること、付け足すこと、賛成できないこと(その場合は、理由と代案を出す)について発表します。このような手順で一巡します。(十五分話し合う)

#### 〈話し合いの様子〉

発表者…自分から先に、「やめるよ。」と言い出すのが怖い。はじめに言うのは勇気がいる。誰かが言ってくれないか、という思いがある。

意見①…それに、注意をすることでいじめがもっとひどくなるかもしれない。そう考えると、いじめを止める権利は自分にはない。

意見②…それは、自分が行動しないことへの言い訳かもしれないと思う。

意見③…傍観者は何もしていないから悪くないということは決していない。助けないという行為は、いじめているグループと同じ立場であると思う。

【教師】終了です。それでは、どのような考えが出されたのか、いくつかのグループに紹介してもらいましょう。

(二又は三グループが発表する)

【生徒H】 見て見ぬふりをするのは、自分は関わりたくないという気持ちが一番なんだけれど、いじめられているAさんに対して、心のどこかで、「しようがない。」「たまたま標的になっ

【生徒I】 自分が先頭きって「やめろよ。」と言いだすのが怖い。

【生徒J】 そうそう。心の中ではみんな、仲良く生活したいと思っているけれど、はじめに言うのは勇気がいる。誰かが言ってくれないか、という思いがある。

【教師】 しかし、いじめている人たちよりも、それを見て見ぬふりしている人たちの方が人数が多いですね。これは、どうしようもないのでしょうか。

【生徒K】 はじめに「やめようよ。」と言ったとして、みんなが自分の味方になってくれるかどうか分からない。

【生徒L】 「やめようよ。」と自分がはじめに声を挙げなくても、誰かが言ってくれるだろうと思って

いる。そうやってみんなが思っているから、結局状況は変わらない。

【生徒M】 自分はいじめたくない。でも、Bさんのグループにあからさまに反対すると怖いので何もできない。

【教師】 いじめの状況に不快感や心が締め付けられるような感じを抱いているものの、自分から言ひ出すことには躊躇があるということですね。

では、こういう状況を何とかすることはできないのでしょうか。改めてもう一度考えてみましょう。ワークシートの二つ星(★★)のところ、グループで話し合ったことや学級全体で話し合ったことを受けて、自分の考えをまとめましょう。(時間は二分)

## 二 学習のまとめをする。

【教師】 「心 みつめて」の七ページを開きましょう。孟子という昔の人、中国の学者が、このように言っています。

「自ら反みて縮くんば、千万人と雖も吾往か

ん」

意味は、「自分の心を振り返ってみたときに自分が正しければ、たとえ相手が千万人であっても恐れることなく、自分の信ずる道を進もう。」昔の人も、他の人がどのように考えようとも、自分の正しいと思うことは自分の責任で実行するということが大切であると考えていたのですね。

【教師】

今日は、「見て見ぬふりをなくすためには」ということについて考えました。(ワークシートは回収する)

〔中学校〕道徳科学習シート

年

組

番

名前

★ 自分の考えをまとめ、友達と話し合いました。

「見て見ぬふりをする生徒たち」のように行動してしまうのはどうしてだろう。

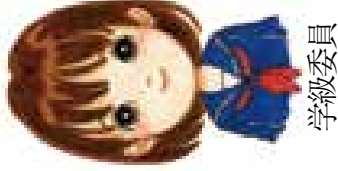
★★ あなたが考えたことを書きましょう。





# 「傍観者でいいのか」

「私」



学級委員

Aさん

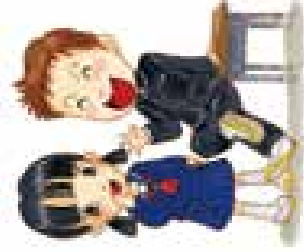


いじめられている生徒

Bさんグループ



いじめている生徒たち



はやし立てる生徒たち



見て見ぬふりをする生徒たち

どうしてこのような状況になったのだろうか

- ・何も言わない人たちがいる。
- ・Bさんたちと関わりたくない。
- ・「私」もいじめられるかもしれないと思って、何もできない。
- ・今度は、「私」がいじめの対象になるかもしれない。

「見て見ぬふりをする生徒たち」のように行動してしまうのはどうしてだろう。

- ・関わりたくない気持ちが強い。
- ・自分が「やめろよ。」と言い出すのがこわい。
- ・今度は、自分がいじめられてしまうかもしれない。
- ・自分が止めようとしたときに、みんなが味方になってくれるか分からない。

このようないじめの状況を何とかすることはできないのだろうか。

- ・みんなで勇気をもって悪いことを止められるような雰囲気づくりをしていく。
- ・「誰かが言ってくれるだろう。」と人任せにせず、自分から「やめようよ。」と言えるようにしたい。

## 「傍観者でいいのか」(中学校教材)

夕べからの雨が降り続けている。「今日も雨か。」

昨日、帰るときAさんの上履きがぬれて泥だらけになっていたことを思い出した。

「遅れるわよ。急ぎなさい。」と母の声が聞こえた。私は、重たいかばんを引きずるようにして家を出た。学校へは行きたくなかった。学級が嫌だった。

二年生になって学級替えがあった。私はみんなに推薦されて学級代表になった。にぎやかな学級だなあと思っていた。そして、みんなのためにできることをやろうと思った。

初めて一緒の学級になった人の中にAさんがいた。気が弱く、ちよつと頼りなさそうなところがあつたが、冗談を言って周りを笑わせる。何を言われてもニヤニヤ笑っていた。AさんはBさんやそのグループの仲間といつも一緒だった。毎朝Bさんの家に迎えに行き、Bさんの荷物をもって登校していた。私は、「断ればいいのに…」と思っていた。

ある日、Aさんは朝寝坊したらしく、Bさんの家に寄らずに慌てて登校することがあつた。登校すると、AさんはBさんたちに呼ばれた。戻ってきたAさんは下を向いて苦しげだったが、すぐに冗談を言っているものようにおどけていた。それから、Aさ

んは今までもましてBさんたちの言いなりになった。学級のみんなの前でもBさんは平気でAさんをからかったり、命令したりするようになっていた。学級の人の中にはBさんたちと一緒にAさんをからかって笑う人まで出てきた。でも、ほとんどの人は、何も言わなかったし、何もしなかった。

Bさんは「Aさんが遊ぼうっていうから一緒に遊んでやるだけだし、Aさんだって笑っているじゃないか。」と声高にみんなに話していた。

私は、「Aさん、なんで笑っているの。怒ればいいのに…」と思った。

一学期の終わりごろになると、Aさんは身体の不調を訴え、早退したり欠席したりすることが多くなった。

放課後、私は掲示物を直していた。その時、思い詰めたような顔をしたDさんに話しかけられた。「Aさんをこれ以上放っておけない。」私は、はっとした。

Dさんは、休んでいるAさんの家に行って話を聞いたそうさ。Aさんはボロボロと涙を流して「いじめられるのはつらい。もう学校へは行かない。」と言ったそうさ。Bさんたちから言われたことを断ると、殴られたりしていたそうさ。

やっぱりつらかったんだ。苦しかったんだと思った。

「人権教育プログラム」(東京都教育委員会 平成16年3月)の掲載資料を一部改編